

江戸東京博物館

NEWS

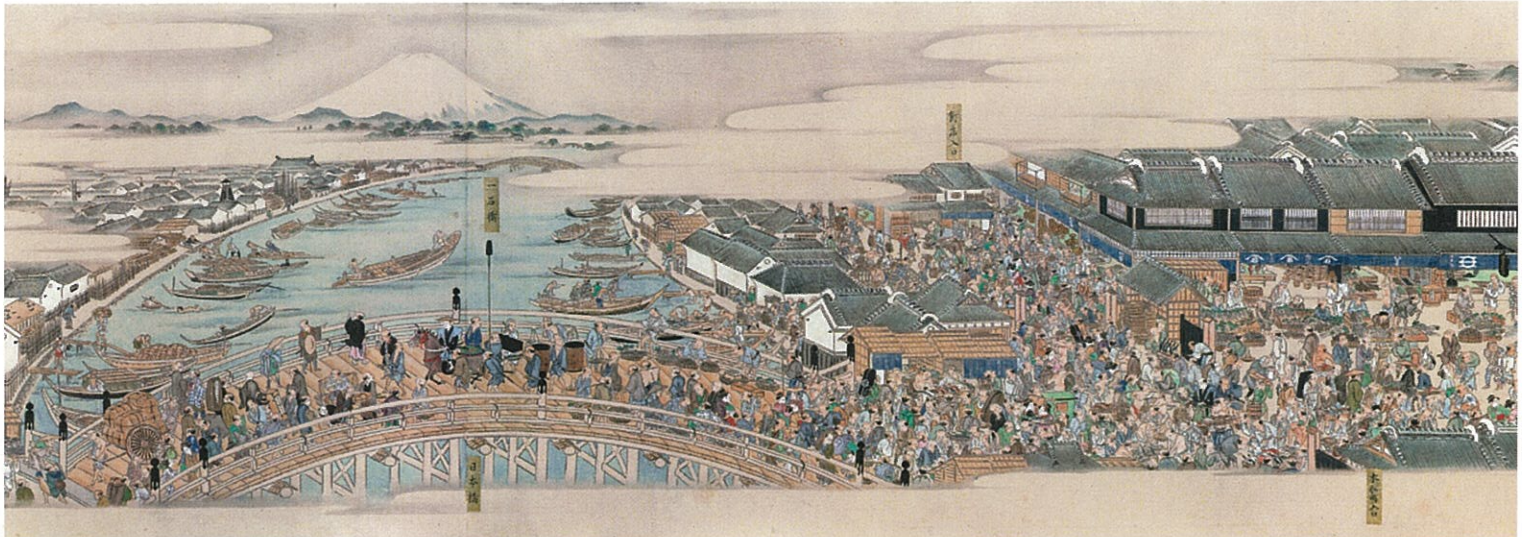
EDO - TOKYO MUSEUM NEWS

江戸東京
博物館
ニュース

Vol. 96

企画展

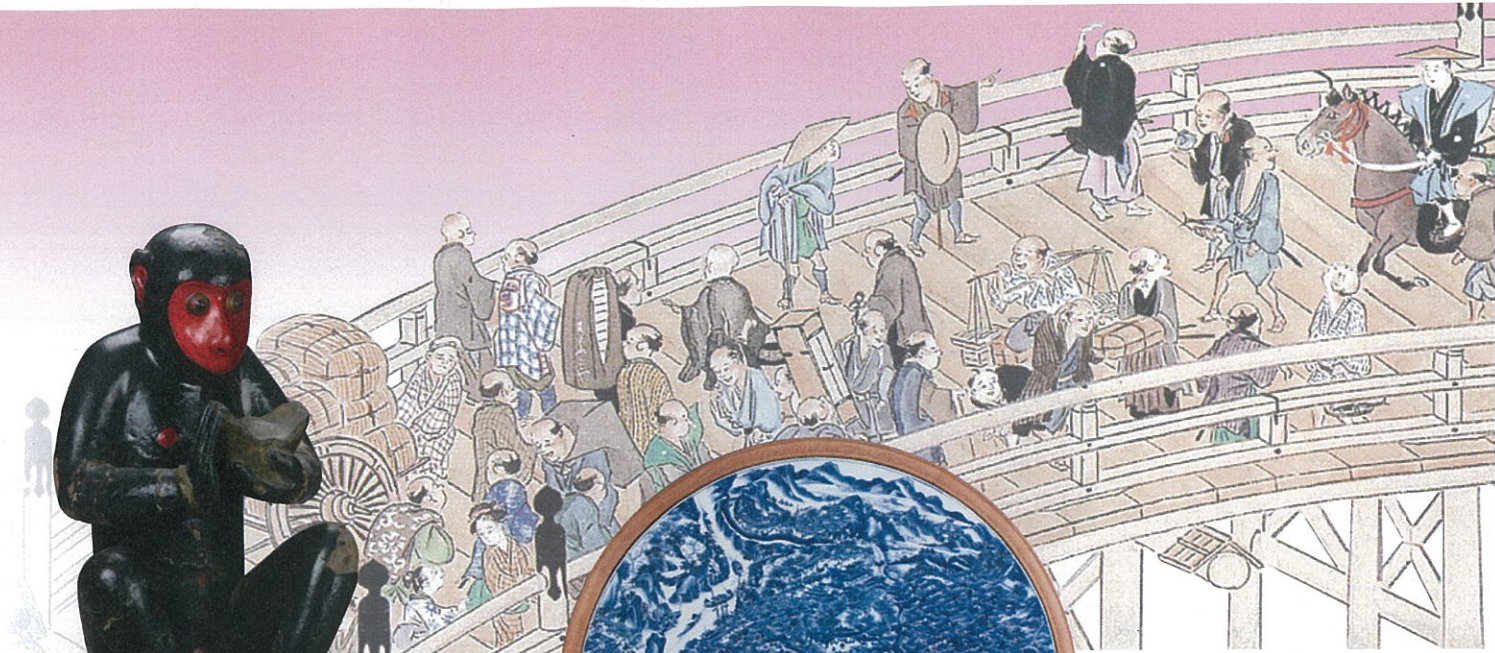
徳川将軍家の婚礼



特別展

江戸と北京

—18世紀の都市と暮らし—



みどころ 手にお金を持った猿の看板
中国の故事に由来する
帽子屋の猿看板
清時代 首都博物館蔵



みどころ
官窯や町並、周囲の山川など、景德鎮の景観を俯瞰で描いた磁器板
青花御窯廠図磁器板
清・同光期(1821~1850)
首都博物館蔵

特別展

江戸と北京

—18世紀の都市と暮らし—



白ビロード地牡丹模様首追
江戸後期 資料番号:13200059

当館と中国北京の首都博物館、瀋陽故宮博物院、韓国ソウル歴史博物館は、2002年(平成14)からシンポジウム開催などを通し交流を続けてまいりました。本展覧会は、それをさらに深め、首都博物館との共同により企画、開催するものです。

日本と中国には、文化交流の長い歴史があり、江戸時代の「鎖国下」においても、中国貿易は公認され、長崎を窓口として、文物の流入が滞ることはありませんでした。なかでも、江戸の人口が100万人を超え、都市として発達を遂げた18世紀は、北京が清朝の首都として最も繁栄を極めた時代でもあります。

本展では、アジア世界の安定期とも言える18世紀を中心に、江戸と北京のなりたちや生活、文化を展覧のうえ、比較します。これまで清朝の芸術や宮廷文化に関する展覧会は数多くありましたが、北京の都市生活を江戸と比較する企画は、今回が初めてです。

第1章 江戸・北京の城郭と治世

北京は、中国の伝統的な都市建設理念に従って、紫禁城を中心に、皇城、次に城壁が周囲を取り囲み計画的に街が形成されました。一方、江戸は開放的な多重構造で、徳川氏本営の江戸城を中核として城下町が造られています。ここでは、絵画や模型をもとに都市の構造と特徴を紹介するとともに、そこに居住した将軍、皇帝の所用品も展示します。

第2章 江戸・北京の都市生活

まず、乾隆帝(1711~1799)80歳の祝典を色鮮やかに描いた「乾隆八旬万寿慶典図巻」で北京の街の賑わいをご覧いただきます。そして、康熙帝(1654~1722)60歳を祝う市内の様子を描いた「万寿盛典」と、江戸の町並みを全長12メートル余で描いた「熙代勝覧」を中心に据え、



みどころ

端午の節句にまつわる
五毒と虎の刺繍のある
腹掛け

端午の節句の腹掛け
清時代 首都博物館蔵

その図像から都市景観や生活、文化を読み解き、比較します。

当時の両市民の暮らしの諸相を、「住まう」「商う」「装う」「育てる」「学ぶ」「歳事」などのテーマに分けて紹介します。看板や生活道具、衣装、装身具などの実物資料や、当時の様々な職業を描いた図、模型などの展示によって、重層的に示します。

第3章 清代北京の芸術文化

緻密で華麗な北京の宮廷芸術や、江戸の知識人が憧れた北京の文人文化のほか、民間の工芸品を通して優れた職人の技なども紹介します。なかでも直径72.5cmの「青花御窯廠図磁器板」は、景德鎮の官窯工房と、磁器の製造工程、町並、周囲の山川などが詳細に描かれており、中国陶磁史や清代の風俗などを実証的に示す貴重



みどころ

端午の節句には、
江戸市内のあちこちで
鯉のぼりがあげられた

歌川広重/画
名所江戸百景 水道橋、駿河台
1857年(安政4) 資料番号:83200064



な資料です。

また、1731年(享保16)、長崎に來日して写生的画法を伝え、日本の画壇に大きな影響を与えた沈南蘋(沈銓)の作品を展示し、後の宋紫石らによる江戸への伝播も紹介します。

国際性豊かな展覧会を通して、両都市が育んできたそれぞれの文化を紹介することによって、友好と相互理解を深める契機となれば幸いです。

(学芸員 江里口友子)

information

特別展「江戸と北京 — 18世紀の都市と暮らし —」

会期 | 2017年2月18日(土)~4月9日(日) 休館日 | 毎週月曜日(ただし、月曜日が祝日の場合は翌日)
開館時間 | 9:30~17:30(土曜日は19:30まで) ※入館は閉館の30分前まで。

観覧料(税込)	特別展専用券	特別展・常設展共通券	特別展前売券
一般	1,400円(1,120円)	1,600円(1,280円)	1,190円
大学生・専門学校生	1,120円(900円)	1,280円(1,020円)	910円
中学生(都外)・高校生・65歳以上	700円(560円)	800円(640円)	490円
小学生・中学生(都内)	700円(560円)	なし	490円

※()内は20名以上の団体料金。※次の場合は観覧料が無料。未就学児童、身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)。※小学生と都内在住・在学の中学生は、常設展観覧料が無料のため、共通券はありません。

主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、中国文物交流中心、故宫博物院、首都博物館、朝日新聞社
後援 | 外務省、中国大使館、中国人民対外友好協会 企画協力 | 黄山美術社 協力 | 全日本空輸

◎チケット販売場所：江戸東京博物館のみ。前売券は2月17日(金)まで販売。会期中は当日料金で販売。

えどはくカルチャー特別展関連講座

- ①「老北京」の年中行事 3月1日(水) 周星(愛知大学教授)
- ②日本に招来された清朝陶磁器 3月22日(水) 堀内秀樹(東京大学准教授)

※時間はいずれも14:00~15:30 ※往復はがきによる事前申込制となります。応募方法や受講料など詳細は、江戸東京博物館ホームページ、および館内配布のチラシなどでご確認ください。
<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

次回特別展予告

特別展

「没後150年 坂本龍馬」

2017年4月29日(土・祝)~6月18日(日)

坂本龍馬は1835年(天保6)に土佐で生まれ、1867年(慶応3)に京都で亡くなりました。その間、浪士の立場ながら薩長同盟を仲介し、大政奉還を推進するなど、近代日本の創設に尽力しました。龍馬が亡くなってからおよそ150年。これを機会に改めて龍馬の人間的魅力を伝える展覧会を開催します。本展では、龍馬の自由奔放な生き様や家族への愛情をあらわした直筆の手紙を中心に、その魅力をわかりやすく紹介します。また、龍馬が暗殺された際に携えていた愛刀「吉行」などの遺品や関連資料を合わせて展示し、龍馬が活躍した幕末という時代に迫ります。

刀 銘吉行 坂本龍馬佩用
江戸時代 京都国立博物館蔵

徳川将軍家の婚礼

2017年1月2日(月)～
2月19日(日)

徳川将軍家の婚礼は、行列を整え、
姫君が嫁ぎ先へ豪華な婚礼道具や衣
裳を携えて入輿しました。その中で婚
礼道具は、家の格式に応じて、実家が
準備する「御先道具」と婚家が準備す
る「御待請道具」に分けられますが、
将軍家の婚礼においては、仕様の統一
をはかるため、幕府の細工所が中心と
なつて製作されました。婚礼にふさわ
しく、梨子地や黒漆地の地蒔きに模
様や両家の紋を散らした、華麗な品々
が準備されました。

本展では、公益財団法人徳川記念
財団が所蔵する13代・14代将軍御台
所の篤姫(天璋院)・和宮(静寛院宮)
の婚礼道具などから、徳川将軍家の
婚礼についてひも解きます。また、篤姫
の婚礼の際に作られた唐織油単を初
公開いたします。

(学芸員 杉山哲司)



葵牡丹紋付唐織油単
篤姫(天璋院)所用 個人蔵

油単(ゆたん): 長持や筆筒などの諸道具を被うための布のことです。
婚礼道具を保護するために使用されました。



黒塗桜蝶唐草蒔絵貝桶
和宮(静寛院宮)所用 公益財団法人徳川記念財団蔵
【展示期間:1月24日～2月19日】



御入輿御行列図(部分)
公益財団法人徳川記念財団蔵 ※会期中に場面替えがあります。



黒塗葵葉菊紋散花桐唐草蒔絵茶箱
和宮(静寛院宮)所用 公益財団法人徳川記念財団蔵

次回企画展予告

企画展「戦時下東京の子供たち」(仮称)
2017年3月7日(火)～5月7日(日)

太平洋戦争の激化にともない、変わっていく東京の子供たちの
暮らしについて、江戸東京博物館のコレクションを中心に展示します。

えどはくカルチャー企画展関連講座

- ①「徳川将軍家の婚礼」展の見どころ 1月11日(水) 杉山哲司(学芸員)
- ②将軍御台所の婚礼と篤姫・和宮の婚礼調度
1月18日(水) 小池富雄(鶴見大学文学部文化財学教授)
- ③将軍家の婚礼に見る有職故実
1月25日(水) 田中 潤(学習院大学非常勤講師)

※時間はいずれも14:00～15:30 ※往復はがきによる事前申込制となります。応募方法や受講料など
詳細は、江戸東京博物館ホームページ、および館内配布のチラシなどでご確認ください。
<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

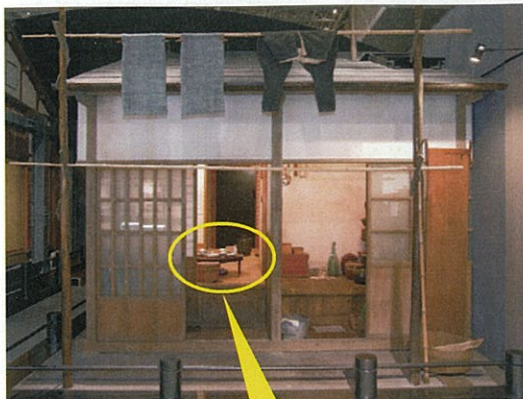
TOPICS

季節で変わる展示

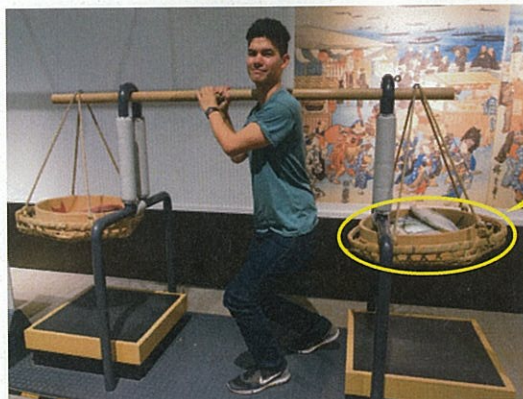


江戸ゾーンの体験展示「小商い棒手振」は、天秤棒につるしたザルや籠に魚や野菜を入れて売り歩く行商人「棒手振」を体験していただくコーナーです。棒手振は朝早く商品を仕入れて江戸市中を売り歩きました。棒手振の売り物に注目！ 夏はかぼちゃなどの夏野菜、秋は旬の魚など、重さまで本物に合わせた超リアルな複製が籠の中に入っています。どんなものが入っているか、ぜひ、チェックしてくださいね。

東京ゾーンの「下町の庶民住宅」では、ちゃぶ台に載っているおかずに注目！ ちょっとと遠目で見えにくいですが、夏は冷奴、秋はさんまの塩焼き（大根おろし付き）など季節に合わせて展示替えていますので、お見逃しなく！



下町の庶民住宅
(常設展示室5階
東京ゾーン)



棒手振り体験(常設展示室5階 江戸ゾーン)



わあー重そうだな…
がんばれ！

江戸東京博物館公式キャラクター ギボちゃん



新人のガイドボランティア
活動開始です！

今年には常設展示ガイドボランティアの募集を6年ぶりに行い、多くの方にご応募いただきました。養成研修を経て、いよいよ1月からガイドボランティアとしてデビューいたします。日本語のほか英語を中心に外国語のご案内体制がますます充実しました。ぜひ、6階常設展示室ボランティアガイド受付でお気軽に声をかけください。



江戸ゾーンを案内するガイドボランティア



ガイドカウンターでの受付

最新中国博物館事情

— 第一五回日中韓博物館国際学術シンポジウム参加記 —

都市歴史研究室 学芸員
市川寛明・文

一〇一六年一〇月二日、中華人民共和国瀋陽市において第一五回日中韓博物館国際学術シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、江戸東京博物館、北京首都博物館、瀋陽故宮博物院、ソウル歴史博物館の三国四館の都市博物館の代表が、毎年共通のテーマに基づいて討論するものです。今回のシンポジウムでの報告を一覧すると表のように



各館代表者による討論風景(向かって左から2番目が藤森江戸東京博物館長)

なります。全八本のうち、共通テーマ「ミュージアムグッズの開発と効果」についての報告が六本、自由論題報告が二本という構成でした。当日は、この共通テーマに沿って各館の取り組みや展望が公表され、活発な意見交換が行われました。

今回のシンポジウムのキーワードはなんとと言っても「文化クリエイティブグッズ」でした。これを翻訳すると「文化アイデア商品、博物館資料をもとに開発したミュージアムグッズ」といった感じでしょうか。当初「ミュージアムグッズの開発と効果」というテーマが設定された理由がよく理解できませんでしたが、シンポジウムに参加することで、その背景がよくわかるようになりました。そこでミュージアムグッズをめぐる最新の中国博物館事情を紹介したいと思います。

瀋陽故宮博物院の車氷水さんの発表によれば、現在中国の博物館では「社会の文明のレベルと国家のソフトパワーを高めよう」という政府の

方針をうけて、博物館資料を活用した商品開発が博物館の課題としてクローズアップされているそうです。これを受けて、瀋陽故宮博物院では、二〇一四年三月に文化クリエイティブ産業部を設立し、以来七〇〇種類以上の商品が文化クリエイティブグッズとして開発され、それらは自館のミュージアムショップばかりでなく、他の博物館、空港、百貨店などでもひろく販売されているそうです。

一方、北京の故宮博物院では二〇一五年末までに八七〇〇種類以上の商品が開発されたというからまさに驚きです。

物質的な豊かさから、精神的な豊かさを求める段階への移行期にさしかかっている現在の中国では、博物館の果たすべき役割に、あらためて注目が集まっているというわけです。博物館の存在意義は、社会の成熟度と深く関係するのはどこの国でも同じ現象のようです。

表: 第15回日中韓博物館国際学術シンポジウム報告一覧

報告類型	所属	発表者	報告テーマ
共通テーマ報告	江戸東京博物館	坂井貴子	ミュージアムにおけるオリジナルグッズの意義と可能性
	北京首都博物館	龍 霄飛	博物館文化アイデア商品の研究開発に関する一考察
		齊 密雲	文化アイデア及び商品が博物館発展において果たす役割—首都博物館を事例に
	瀋陽故宮博物院	蘇 陽	所蔵文物と文化アイデア商品で大衆の知的欲求を満たす—瀋陽故宮博物院の文化アイデア商品を例として—
	ソウル歴史博物館	車 氷水	文化新政での博物館発展の新しい機会を論じる
自由論題報告	江戸東京博物館	市川寛明	学説としての展示模型—展示模型の限界とその克服のために
	ソウル歴史博物館	韓 恩熙	ソウルの記憶と博物館展示—清溪川博物館を事例とする



『江戸商売図絵』や『目でみる江戸職人百姿』のような、江戸の庶民の生業が描かれている本と見比べてみますと、一層、面白い発見があるかと思えます。どうぞ図書館でお手に取ってご覧ください！

当館と交流のある海外の博物館のひとつに、中国北京の首都博物館があります。同館所蔵の画集「老北京三百六十行」をまとめた『華夢遺珍 老北京三百六十行繪本』は、清代後期の北京の街に息づいていた様々な職業が、色鮮やかに描かれています。農夫や大工・物売り・大道芸人など、実に370以上もの職業をうかがい知ることができます。

図書館から
LIVE REPORT

老北京

お知らせ

全館休館のお知らせ

当館は2017年(平成29)10月1日(日)から2018年(平成30)3月31日(土)まで、設備改修工事のため全館休館を予定しています。

(なお一部施設は9月から休室となります)



各施設の再開につきましては、次の通り予定しておりますので、どうかよろしく申し上げます。

- 常設展示室(5階・6階)及び図書室(7階) → 2018年(平成30)4月から開室予定
- 特別展示室(1階) → 2019年(平成31)4月以降の再開予定

各施設	2017年8月	9月	2017年10月～2018年3月	2018年4月
特別展示室(1階)	開室		休室	
常設展示室(5・6階)	開室		休室	開室
図書室(7階) 映像ライブラリー(7階)	開室		休室	開室
映像ホール(1階)	開室		休室	
ミュージアムショップ(1階・5階)	営業		休業	オープン(予定)
レストラン(1階・7階)	営業		休業	7階オープン(予定)
貸出施設(1階)	ホール・楽屋	貸出可能	貸出休止	
	会議室・学習室	貸出可能	貸出休止	

全館休館(平成29年10月1日～平成30年3月31日)

江戸東京博物館分館
江戸東京たてもの園から



武蔵野図屏風
(左隻)部分
江戸中期
資料番号:
87201313

特別展「川崎平右衛門
— 武蔵野新田開発の立役者 —」

八代将軍となった徳川吉宗は、享保の改革と呼ばれる様々な政策を実施しました。著名なものには足高の制や町火消しの設置などが知られていますが、年貢の収入を増やすための大規模な新田開発もそのひとつでした。多摩地域に広がる武蔵野新田もこの時期に開かれましたが、その経営は必ずしも順調なものではありませんでした。

そこで武蔵野新田の担当であった町奉行・大岡忠相は地域を知る人物に白羽の矢を立て、武蔵野新田の運営を任せました。それが武蔵国押立村の名主・平右衛門でした。平右衛門は期待に応え武蔵野新田の立て直しを図り、次第に村々の経営は安定していきました。

本展では武蔵野新田開発の特徴を交えながら、現在の多摩地域発展の立役者となった平右衛門の事績を振り返ります。

会 期…2017年(平成29)

2月7日(火)～5月7日(日)

休園日…月曜日(ただし3月20日・27日、4月3日、5月1日は開園)

催し物のご案内 冬期ふれあい体験教室

事前応募制教室

●歌舞伎の化粧をしてみよう(大人向け)

日時/3月4日(土)
13:30～15:30
対象/高校生以上 定員/20名
締切/2月18日(土)
場所/1階 会議室



※講師/ふれあいボランティア ※いずれも参加料無料

●歴史散歩

「飛鳥山・王子の名所散歩」
日時/3月12日(日) 13:00～16:00
※荒天時は3月19日(日)に順延
対象/一般 定員/20名
締切/2月25日(土)

お申し込み方法

往復はがきに住所・氏名(2名まで)・年齢・電話番号・希望講座名を明記の上、下記へ(締切日消印有効)
〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1
江戸東京博物館 ボランティア事務局
ふれあい体験教室係

当日受付教室

●和算パズル

日時/1月7日(土)
13:00～15:30(受付終了15:00)
対象/小4以上

●反古紙で折る小物
—江戸のエコロジーを見習おう—

日時/1月7日(土)
13:00～15:30(受付終了15:00)
対象/小学生以上

●歌舞伎の鳴り物をならしてみよう

日時/1月21日(土)
①12:00～12:30
②14:00～14:30
対象/幼児～一般
※各回とも時間内にお越しください。

●扇子遊びをしましょう

日時/1月21日(土)
12:45～13:45
※時間内にお越しください。



●ときめきキモノ体験

日時/1月28日(土)、2月25日(土)
10:30～12:00(受付終了11:30)
対象/3歳以上
定員/20名

●鬼の面を作ろう

日時/1月29日(日)
13:30～15:00
対象/5歳以上
定員/25名



●如月茶席

日時/2月4日(土) ①13:00～13:30
②13:45～14:15
③14:30～15:00
対象/一般 定員/各回15名
場所/1階 会議室(整理券配布12:00～会場前)

●浮世絵をくみてもう

日時/2月26日(日)
13:00～15:00
(受付終了14:30)
対象/小5以上 定員/30名



●万華鏡で遊ぼう

日時/3月25日(土)
10:30～12:00(受付終了11:30)
対象/小3以上 定員/15名

※場所の表記がない場合、常設展示室5階ミュージアム・ラボで開催。 ※いずれも参加料無料(但し常設展示室が会場の教室は観覧料別途必要)
※講師/ふれあいボランティア

ミュージアムトーク

江戸の商業

1月6日、13日

企画展「徳川将軍家の婚礼」展みどころ

1月20日、27日、2月3日

空襲と都民

2月10日、17日

芝居と遊里

2月24日、3月3日

開化の背景

3月17日、24日

企画展「戦時下東京の子供たち(仮)」展みどころ

3月10日、31日

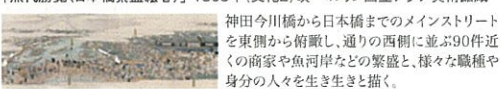
常設展示室のみどころを学芸員が解説します。

日時/毎週金曜日 16:00から

常設展示室5階の日本橋下までお集りください。
所要時間は約30分です。

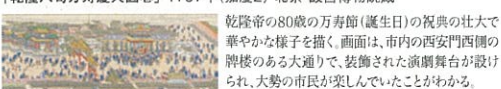
表紙解説

「熊代勝覧(日本橋繁盛絵巻)」1805年(文化2)頃 ヘルリン国立アジア美術館蔵



神田今川橋から日本橋までのメインストリート
を東側から俯瞰し、通りの西側に並ぶ90件近く
の商家や魚河岸などの繁盛と、様々な職種や
身分の人々を生きた様子を描く。

「乾隆八旬万寿慶典図巻」1797年(嘉慶2) 北京・故宮博物院蔵



乾隆帝の80歳の万寿節(誕生日)の祝典の壮大で
華やかな様子を描く。画面は、市内の西安門西側の
牌楼のある大通りで、装飾された演劇舞台が設け
られ、大勢の市民が楽しんでいたことがわかる。

※いずれも会期中に場面替えがあります

江戸東京博物館 NEWS vol.96

お問い合わせ 03-3626-9974(代表) ホームページ <http://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分、東口から徒歩7分
都営地下鉄大江戸線「両国駅(江戸東京博物館前)」A3・A4出口から徒歩1分
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分

発行日 2016年(平成28)12月22日(木)

編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館 〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1

印刷・制作 株式会社恒陽社印刷所